

# 高等学校事情

## 第5回 北陸エリア

連載第5回は、北陸エリアの石川県と富山県の状況をレポートする。両県ともに、センター試験現役志願率が全国上位と国立志向が強い。石川県は、特色づくりを推進する学力向上施策を2012年度にスタートし、一層の進学実績の向上を図る。一方、富山県はきめ細かい個別指導で学力向上を図る一方、進路選択の幅を広げるためのキャリア教育にも力を入れている。

### 石川県

#### 石川県の アウトライン

#### 金沢市内の高校に 生徒の半数が集中

2011年度の石川県の18歳人口は1万1243人で、ここ10年間で最少となった。文部科学省『2011年度学校基本調査速報』による石川県の高校数は国立1校、公立45校、私立10校の計56校(特別支援学校を除く)、生徒数は国立約380人、公立約2万4450人、私立約7340人(定時制を除く)で合計約3万2170人である。

図表1 18歳人口と進学率の推移

年度	2007	2008	2009	2010	2011
18歳人口(人)	12,280	11,719	11,352	11,321	11,243
大学等進学率(%)	54.6	54.5	55.2	55.3	54.8
地元大学進学率(%)	36.5	36.5	38.2	39.6	39.7
地元短大進学率(%)	75.6	76.3	78.3	79.3	78.4

※学校基本調査報告書を基に進研アドが算出。  
※大学等進学率は、大学・短大の通信教育部への進学者を含む。過年度卒業者を含まない。  
※地元大学進学率、地元短大進学率は過年度卒業者を含む。

県内の高校56校のうち20校が金沢市内に集中しており、進学校と言われる高校も市内に多い。2005年度入試から全県一区制に移行し、現在は約半数の生徒が金沢市内に通学している。

大学等進学率は2007年度以降あまり変化がなく、55%前後で推移している。地元大学への進学率は2000年度の32.8%から2011年度の39.7%へと徐々に上昇し、地元志向が強まっている(図表1)。県外では、隣接する富山県や大学の多い近畿地区を中心に、関東地区や中部地区への進学も多いが、国立志向が強く、それ以外のエリアの国立大学への進学を指導する高校もあるようだ。

#### 高校の現状① 改革の取り組み

#### 支援校指定事業で 高校の魅力づくり

石川県教育委員会は、県の学校教育

の基本方針として2003年度に「石川の学校教育振興ビジョン」を策定。このビジョンに基づき高校の魅力づくりを推進してきた。新たなタイプの学校づくりとして、中高一貫教育校の設置や後述のスーパーハイスクール事業を実施。また、高校の特色づくりの一環で、県のビジョンの具現化に取り組む高校を推進校として支援。多様化する生徒のニーズに対応した学校づくりを進めてきた。

2011年度からは、新たに策定した「石川の教育振興基本計画」に基づいた「魅力ある県立学校づくり推進事業」に着手している。2011年度は、魅力づくりに向けた企画の募集に公立高校52校4分校(特別支援学校を含む)から応募があり、「加賀高校ドリカムプロジェクト～心の教育の充実から基礎学力の向上へ～」に取り組む加賀高校など6校を実践校として選定している。

魅力づくりに取り組む一方で、高校の再編整備も進めている。石川県の中学校卒業予定者は、2017年度頃までは1万1000人程度で推移するが、県北部の珠洲市や輪島市、能登町といった地区では大幅な減少が見込まれている。こういった予測を受けて、県教委は2007年度に「県立高等学校の活性化推進計画」を策定、教育水準の維持向上を図る再編整備を進めてきた。

2008年度に輪島高校と輪島実業高校など6校を3校に、2009年度には能都北辰高校と能登青翔高校など4校を2校にと、2年間で10校の再編を実施。中島高校と七尾東雲高校の再編時には全国から生徒を募集する演劇科を新設するなど、同時に特色化を図る例もみられる。

#### 高校の現状② 学力向上施策

#### 発展的施策で 一層の学力向上を図る

特徴的な学力向上施策として、「いしかわスーパーハイスクール」が挙げられる。2003年度にスタートしたこの事業は、質の高い発展的な学習を支援するものだ。スーパーサイエンスハイスクール(SSH)指定校の金沢泉丘高校、小松高校、七尾高校の3校を科学教育や理数教育の重点校に、金沢二水高校と金沢桜丘高校の2校をコミュニケーション能力や表現力育成の重点校に指定した(図表2)。高度な教育実践のために、科学実験や英語討論などの特色ある科目を設け、大学教員らによる指導が実施されている。

この事業を進化・発展させ、2012年度からは「いしかわニュースーパーハイスクール事業」をスタートさせる。指定校の変更はないが、SSH指定の3校で文系の新たな取り組みをスタートさせ、それ以外の2校では、各高校の牽引役となる文系・理系の新しいコースを設置する。

金沢泉丘高校では、文系コースを「文理一人文系」、理系コースを「理文一人文系」と改めて、それぞれ数学の強化と国語の充実をめざす。英文文献の講読などの語学教育により、グローバル社会に対応した人材の育成を

図表2 2011年度「いしかわスーパーハイスクール」指定校と主な取り組み

高校名	主な取り組み内容
金沢泉丘	学校設定科目である「コスモサイエンス」「人間科学」など、大学レベルの理工学実験の実施や先端科学の学習による科学技術系人材の育成。
小松	科学的探究力を高める「スーパーチャレンジ」や課題研究を英語論文に仕上げる「スーパーグローバル」など、体験を重視した発展的な科学教育の充実と国際性の育成。
七尾	学校設定科目の「フロンティアサイエンス」において、地球物理(海洋、天文)など、能登の自然を生かしたフィールドワークを重視した科学教育の充実。
金沢二水	英語によるコミュニケーション能力の育成や国際理解教育の充実を図り、生徒のプレゼンテーション能力の向上に重点を置く「Aキュービックプロジェクト」の実施。
金沢桜丘	読む・書く・話す活動を通じた論理的思考力や表現力の育成を図る知力活性化プログラム「アクティヴブレイン」の導入。

図る。

小松高校では人文科学コース(1学級)を新設。国際感覚を磨く特色あるカリキュラムを編成する。七尾高校では、新たに文系フロンティアコース(1学級)を設ける。思考力や表現力を養う「論述練磨」などの独自科目を設定するほか、海外研修などを通じて実践的な英語力を磨く。金沢二水高校と金沢桜丘高校には、従来の文系・理系のほか、学力や進学に関する高い目標に対応するカリキュラムを備えた、文系の「人文科学コース」と理系の「自然科学コース」を各1学級設ける。

この新事業は、文系・理系それぞれにおいて、リーダー的人材の育成にさらに力を入れる取り組みと言える。

#### 進路指導の特徴

#### 計画的指導で 国立大学をめざす

石川県は国立大学志向が強い地域だ。2011年度の大学入試センター試験でも現役志願率が全国第6位の47.8%だった。県内有数の進学校と言われる金沢泉丘高校では、2010年度の卒業生の63%にあたる226人が国立大学に合格している。同校は、個別面談や学校独自の「進路設計の手引き」を活用し、入学時から計画的で丁

寧な指導を行っており、理数科を設置するSSH指定校でもあるため、大学や研究機関などと連携した科学教育にも積極的に取り組んでいる。

近年進学実績を伸ばしているのが金沢二水高校だ。Academic(知的好奇心の高揚)、Advanced(基礎学力の定着と高い知識の獲得)、Ambitious(高い目標とチャレンジ精神の涵養)を柱にした「A<sup>3</sup>(Aキュービックプロジェクト)」に取り組み、達成目標に「現役生の難関大学および金沢大学の合格者150人以上」「国立大学の合格者240人以上」を掲げている。数学・英語の授業は少人数体制できめ細かな指導にあたるほか、学年ごとに立てた年間計画に基づいた進路指導を行っている。

私立高校で特徴的な指導を行っているのが星陵高校だ。最難関の国立大学、私立大学への進学希望者を対象とする「Aコース」、国立大学・私立大学への進学をめざす習熟度別クラス編成の「Bコース」、部活動しながら大学進学をめざす「Pコース」の3コースを設置し、多様な生徒を受け入れている。Aコースは、7限授業や休業中の補充授業などで十分な授業時間を確保。3年間クラス替えをせず、担任も持ち上がりするなど、各生徒への緻密な指導により、県内の私立高校ではトップクラスの進学実績を挙げている。



## 富山県



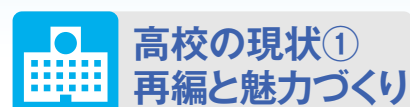
### 強い国公立志向 地元進学率は2割未満

文部科学省「2011年度学校基本調査速報」によると、富山県の18歳人口は1万60人。高校数は公立51校、私立10校の計61校(特別支援学校を除く)、生徒数は公立約2万2800人、私立約5940人(定時制を除く)で合計約2万8740人である。

大学等進学率は、2007年度に2.2ポイント上昇した後は54%前後で推移している。地元大学への進学率は徐々に上昇してきているが、過去10年間を見ても20%台に乗ることはなく、全国で35~40位にとどまる(図表1)。受け皿となる県内の大学・短大が7校と少ないことも影響しているようだ。

富山県教育委員会の調べによると、2011年度の県外進学先は、関東地区が全体の20.5%と高く、次いで近畿地区13.1%、中部地区12.8%となっ

ている。また、高校卒業者に占める国公立大学入学者の割合が、2009年度に22.5%で全国1位と国公立大学への進学志向が強い。高校3年次の1月まで、入試科目に偏ることなくバランスの良い学習指導をする学校が多く、2011年度のセンター試験の現役志願率も52.5%で全国トップであった(大学入試センター調べ)。



### 2010年度の再編で 高校小規模化に歯止め

富山県教育委員会は、1988年度をピークとする中学校卒業生数の減少に、高校再編をほとんど行わず、学級数を減らすことで対応してきた。これにより県立高校の小規模化が他県よりも進み、1学年3学級以下の学校の割合が2007年度に32.6%まで上昇、同年度の試算では、2009年度には平均学級数が4.1になると見込んでいた。これをふまえ、2008年度に2012年度を目途とした「県立高校再編の前期実施計画」を取りまとめた。

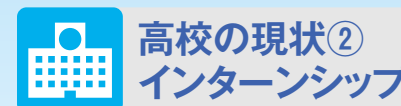
この計画を基に、全日制県立高校43校のうち10校を再編し、2010年度に5校が新設されている。そのうち2校の工業高校は、産業界の要望を取り入れた「ものづくり中核校」に位置付けられ、製造業が盛んな富山の産業を支える工業科教育の充実を図ってい

る。再編の結果、2010年度の平均学級数は5.0となった。前期実施計画は2012年度で終了するが、県教委は「ある程度の学級規模は確保したので、しばらくは新設した5校の教育の充実に取り組みたい」としている。

魅力ある高校づくりの取り組みとしては、2011年度に5校で実施された理数科のリニューアルが挙げられる。富山高校、富山中部高校、高岡高校の3校が理数科の募集を停止し、新たに「理数科学科」と「人文社会科学科」の2学科2学級からなる「探究科学科」を開設。少人数のグループによるゼミ形式の授業や課題研究、大学での研修など、探究的な学習を「総合的な学習の時間」などを活用して実施する。

同様に、魚津高校と砺波高校の理数科も募集を停止し、普通科単独校にした。これに伴って、魚津高校は進路別講座制を、砺波高校は類型選択制カリキュラムを採用。希望する進路に応じた多様な選択科目を開設し、低学年からの少人数学習など、きめ細かな指導を充実させている。

その他の教育充実策には、2008~2010年度に実施された「県立学校教育改革推進事業」のリニューアルが挙げられる。新たに策定された「とやまの県立学校元気創造事業」は、すべての県立高校が独自に設定した中長期ビジョンの実現に向けた取り組みを支援するもの。「学力向上」「科学教育の推進」「キャリア教育」といった重点課題に基づいた先進的な教育を推進する施策として、10校を「重点課題推進校」に指定(図表2)。各高校から提出された実施計画書とプレゼンテーションにより、「富山御三家」と称される進学校(富山、富山中部、高岡)や工業高校、定時制高校など、バラエティーに富んだ顔ぶれが選定されている。



### 進路決定を後押しする インターンシップ事業

県教委が学力向上とともに力を入れているのが、キャリア教育やインターンシップといった進路選択に関する指導である。

富山県では、成長に合わせた段階的なキャリア教育を実施している。1999年度から実施している中学2年生対象の職場体験プログラム「14歳の挑戦」は、現在、県内の全公立中学校で取り組まれている。このような早期からの取り組みは、キャリア教育に対する高校生の意識向上にもつながっていると、県教委は言う。

全日制公立高校のインターンシップ参加者は、職業系の専門学科の生徒を中心に年々増加しており、2010年度には全体の66.6%にあたる約4580人が参加。実施した高校は43校中42校に上る。体験した生徒の割合を学科別に見ると、普通科では全国平均の17.2%(国立教育政策研究所調べ)に対して55.2%だ。

こうした取り組みもあり、2010年度の高校卒業者のうち就職や進学先が決まらずに卒業した生徒の割合は、0.95%と全国で最も少なかった(県教委調べ)。



### 指導力向上のため 日常的に校内研修

富山県の県立高校の特徴として、頻繁な面接や個別の添削指導、入学時のオリエンテーションを兼ねた学習合宿

図表2 2011年度「とやまの県立学校元気創造事業」重点課題推進校と主な取り組み

高校名	主な取り組み内容
魚津	学力向上、キャリア教育、「いのちの教育」の推進。進路別講座等の確立、県内・近県大学研修、奉仕活動や異世代交流の充実。
富山	学力向上、科学教育、キャリア教育の推進。理解度に応じた教科指導、校外フィールドワークなどの地域研究の充実、探究的な授業の研究。
富山中部	学力向上、科学教育、「いのちの教育」の推進。探究科学科「基幹研究」報告会、大学探訪、社会福祉施設での交流会等の実施。
富山工業	学力向上、キャリア教育、魅力ある学校づくりの推進。ものづくり技術講習会実施、資格取得補習テキスト作成、小学生向けものづくり教室の開催。
雄峰	キャリア教育、魅力ある学校づくりの推進。自立的社会人の育成に向けたキャリア教育プログラムの開発、自主学習支援のあり方の研究。
高岡	学力向上、キャリア教育の推進。探究力育成のための教員の指導力の向上、職業理解講座等による生徒の進路意識の高揚。
高岡工業	魅力ある学校づくりの推進。二上工業高校と合同でロボット研究、中学生から作品を募り絵画・彫刻・工芸・デザイン展を実施。
氷見	学力向上、科学教育、ふるさと教育の推進。地域の教育資源を活用した「HIMI(氷見)学」の実践、専門4学科合同「HIMIショップカフェ」の実施。
砺波	ふるさと教育、キャリア教育、魅力ある学校づくりの推進。砺波の自然・文化を題材としたフィールドワークによる科学的思考の育成とふるさと教育の推進。
南砺福野	学力向上、「いのちの教育」、魅力ある学校づくりの推進。学び合い活動、井波高校と連携した園芸セラピー、パロ(介護ロボット)のいる学校、中学校へのコーチング活動。

など、手厚い指導が挙げられる。

2011年度に16人の東京大学合格者を出した富山中部高校では、職員室の前に長いすや白板が用意され、個別の面接指導や学習指導が随時行われている。平日4時間以上の家庭学習を目標に掲げ、定期的な生活実態調査を行っている。

砺波高校では、学校経営計画の中で、「1、2年生は一人あたり年6回以上、3年生は10回以上の面接を実施」「第1志望校合格率75%以上」などを進路指導の達成目標として掲げ、指導にあたっている。受験指導に関しては、卒業生の満足度調査により指導の的確さを検証し、教員の指導力向上に生かしている。

こうした指導態勢を支えるのが、2006~2015年度版「県立高校将来構想」にもうたわれている「授業における指導の充実」と「学校の教育力の向上」に向けた研修だ。教員の指導力を高めるため、日常的に校内研修などが行われている。2007年度からは「教師力向上支援事業」が実施されてお

り、教材の開発・作製や語学力育成授業の研究、フィンランドのPISA型授業の視察など、教員の自発的研修を支援している。

私立高校で注目されるのは、2008年度に富山県初の中高一貫教育校として開校した片山学園中学校・高校だ。2010年度に初の卒業生を出したが、第一期生86人から東京大学3人、京都大学2人、その他の国立大学医学部医学科7人の合格者を出している。

片山学園の特徴は学習量にある。週3回の7限授業と土曜授業によって授業時間を多く確保。中学校では、夜間の特別授業などを合わせると公立中学校の約1.8倍の時間になる。このような学習が中高一貫して行われ、高校2年次までの5年間で6年分の内容を終了する。高校3年次は、大学受験対策に特化したカリキュラムにより、志望校合格に向けた指導に注力している。進学実績では県立高校優位の富山県だが、同校の今後の成果に注目が集まっている。

図表1 18歳人口と進学率の推移

年度	2007	2008	2009	2010	2011
18歳人口(人)	11,085	10,450	10,167	10,176	10,060
大学等進学率(%)	53.6	54.6	54.2	55.2	54.2
地元大学進学率(%)	18.4	18.2	19.4	19.5	19.6
地元短大進学率(%)	54.4	57.8	58.4	60.6	63.9

※学校基本調査報告書を基に進研アドが算出。  
 ※大学等進学率は、大学・短大の通信教育部への進学者を含む。過年度卒業生を含まない。  
 ※地元大学進学率、地元短大進学率は過年度卒業生を含む。